「日々の理科」（第 827 号） 2016（H28）,10,11

「はさかけのある風景（１）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

各地でイネの収穫が始まっている。群馬県西部は、台風の被害もほとんどなく、豊作だったようだ。黄金色の稲田で、収穫をする作業が各地で見られる。

イネは収穫してから、そのまますぐに精米できるわけではない。一定期間乾燥させる必要がある。その為に、収穫した稲穂の束を逆さまに吊るして、収穫後の稲田やその周囲に干す姿が見られる。干す為に造った木組みを「稲木（いなぎ）」、この作業のことを「稲木干し」と呼ぶが、埼玉北部や群馬では「稲架掛け（はさかけ）」と呼ぶことが多い。

「はさかけの風景」　群馬県嬬恋村　水彩 C.Tanaka
嬬恋村は、主として高原野菜の栽培が盛んで、水田は非常に少ない。しかし、吾妻川の平地に小規模な水田が存在し、10 月には「はさがけ」の風景が見られる。最も標高の高い場所では、標高 1000m 以上の場所に棚田が存在し、毎年収穫が行われている。

「はさかけ」は、単に稲穂の水分を抜くという「乾燥」の目的が主であるが、それだけでではないらしい。以下のような目的があるようだ。

・米の本体である籾（もみ）を乾燥させる。
・干すことで、栄養素（主としてアミノ酸）の濃度が高くなり、米のうま味が増す。
・糖度も高くなり、おいしい米になる。
・稲穂を逆さまに吊るすことで、それらの成分が米本体に落ちて、効果が増す。

先日、北軽井沢から二度上峠を通って、高崎へ向かう県道を通った。途中、倉渕（くらぶち）という集落を通る。以前は「倉渕村」という独立した自治体だったが、今は高崎市に編入されている。山あいで、平地の少ない土地だが、稲作が非常に盛んで、10 月上旬には収穫や「はさかけ」の風景が随所で見られる。国道 406 号線から少し脇道に入って観察してみた。

実に日本らしい、美しい風景だと思う。我々日本人はこうした風景を美しいと思う遺伝子を持っているのかも知れない。

しかし最近は、稲籾の乾燥も機械による温風で大規模に行うようになってきた。こうした風景も「観光用」のみの珍しい光景になってしまうかも知れない。